

インターバンクの声（2015 年 6 月 15 日）

先週、黒田日銀総裁の発言で 124 円台から 122 円台中盤へ 2 円ほどドルが下落した円相場は、それ以降、堅調な米小売売上高の発表直後に一度だけ 124 円台を回復させる場面があったが、どうも 124 円の上値が重くなっている。週末のニューヨーク市場でも、序盤に発表された米生産者物価指数とミシガン大学消費者信頼感指数がともに市場予想を上回ったにも関わらず、ドル買いに勢いが付くことはなく、むしろミシガンの 1 年と 5 年先の期待インフレ率が先月の 2.8% から 2.7% に低下したことや、ダウ平均の下落幅の広がり、米長期金利の下落などが重なった影響を受けて、123 円台前半まで押し下げられてしまった。今週は注目の米連邦公開市場委員会（FOMC）の決定が東京時間木曜日の未明にあるが、その前に最近の市場が結構神経質になっている住宅関連指標の発表などもあり、FOMC 発表前の水準を僅かながらでもドル高になるのかドル安になるのかへの影響はありそうだ。今日は週末ダウ平均が 140 ドルほど下げて終えていることもあり、日経も連鎖的に下げるようだと、ドル円の上値がますます重く感じられるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。